

# 11・2分会代表者会議

## 『秋年闘争を地本・分会が 一体で取り組む』ことを確認

11月2日(土)秋田市「秋田県労働会館フォーラムアキタ」を本会場として、web形式による「2024分会代表者会議」が開催され、各分会から代表者23名が出席し、秋期年末闘争の取り組みに向け意思統一を図った。

開会にあたって、古村地本副委員長から「本来であれば、この分会代表者会議で秋年闘争等について確認し、指令文書を発出することになるが、本部への報告期限等の関係から、すでに指令文書を発出している。変則的な開催をなつてしまったが、あらためて、しっかりと議論していただき、



分会代表者会議

秋期年末闘争を分会全体で取り組めるようにお願いしたい。」と挨拶があった。

高橋地本委員長からは「まずは衆議院選挙の取り組みに感謝したい。与党の過半数割れとなったが、今後、どういった枠組みで進められていくのかが見えない。野党間で選挙協力ができれば議席はもつと増えていたことは明らかであり、連合の選挙総括がどうなるのか。」人事院勧告はさながら、給与法改正がどうなるか見えない。定期期に向けてしっかりと取り組まなければならぬ。若年退職者が多い局は、林野労組の組織率も低くなっている



報告する高橋委員長

1. 引き続き、古村副委員長から地本指令第2号「2024秋期年末闘争の展開について」提案がされ、
2. 森林・林業・木材関連産業の基本政策の推進に向けた取り組み
3. 国有林野事業の推進に向けた取り組み
4. 組織強化と民主的な組織運営に向けた取り組み
5. 未組織林業労働者の組織化に向けた取り組み

ことが実態として明らかになっており、当局も組合の組織率と連動していることを認識している。」といった挨拶があり、引き続き、高橋地本委員長を議長として議論が進められた。

はじめに高橋地本委員長から10月18日に開催された全国代表者会議報告がされ、「連合・公務労協等との取組み」「衆議院解散総選挙をめぐる政治情勢」「2025概算予算要求」「組織・定員要求」「国有林野事業の推進」「組織体制の確立と組織拡大」などの議論について、報告がされた。

- ▼書記局予定▲
- 1月11・12日 地本執行委員会
  - 1月24日 全国代表者会議
  - 1月27日 本部・地本春闘オルグ
  - 1月29日 地本・本局分会合同旗開き

## 「組織化の強化を！」

### 第16回本局分会定期大会

10月15日(金)、フォーラムアキタにおいて、第16回本局分会定期大会が開催されました。

大会議長に山城卓也さん(3班・技術普及課)を選出し、神成執行委員長から、「未加入職員の組織化と、国政をはじめとする選挙戦、そして局内における職場状況」等について挨拶が



大会の様子

加入未加入の理由等を分析した上で、繋がりのある組合員から協力をいただく呼びかけをすること。等、各項目について、具体的に提案がされた。

また、その他として、新組合員名簿を作成するため各分会からの報告及び地本機関紙の定期発行に向けた

5. 2024人事院勧告確定期及び2025春季生活闘争に向けた取り組み
  6. 反戦平和及び各級選挙勝利に向けた取り組み
- 等について、全体的な提案がされ、これを踏まえ伊藤書記長からは、2024秋年闘争の取り組みとして、
- ◎「2025年度予算概算決定に向けた要求書」及び「職場改善要求書」を地本・分会が連携を図り、提出・交渉すること。
  - ◎2025年度事業予定について、業務運営に係わり、職場実態から要求書を練り作り上げ交渉等を実施すること。
  - ◎組織率60%を目指す取り組みとして、「組織化対策委員会」等を設置し、



本会場の状況



提案する伊藤書記長

2023年度闘いの総括、2024年度運動方針案が報告提案され、今後一年間の活動方針を全体で確認し、大会を終了してきました。

大会終了後には、懇親会を開催し組合員・来賓含めて夜遅くまで交流を深めました。

大会を通して感じたことは、業務の忙しさから、労働組合が職場の中で見えにく



新分会執行員

い状況も多々ありますが、組合員一人ひとりが、しっかりと職場を見て、仲間と寄り添う存在でなければと感じた分会大会でした。

組織化に向けて本局分会ガンパロー！

新役員は次のとおりです。

|        |       |
|--------|-------|
| 執行委員長  | 神成 悟  |
| 副執行委員長 | 小野 徹  |
| 副執行委員長 | 三浦 仲忠 |
| 書記長    | 西根 雄幸 |
| 執行委員   | 木村 博臣 |
| 執行委員   | 津嶋 龍輝 |
| 執行委員   | 松井 尊大 |

各分会からの投稿についても提案がされた。

各議題については、全体で確認がされ、「2024秋期年末闘争の展開について」「(地本指令第2号)を地本・各分会が連携して取り組むこと、そして、そういった行動を組合員と共有していくことを確認し会議を終了した。

12月になり早いもので今年も残すところ1ヶ月を切り、職場では忘年会、家庭ではクリスマス、地本では旗納めと、イベントが目白押しなのかな、あつという間に年末・年始を迎えそうなのだが、今年の年末・年始は9連休となるようだ。▼年末・年始の大型連休を調べてみると、直近では2019年以来5年ぶりとなるが、ホテルなどの宿泊費は相変わらず高騰が続き、年内にはガソリン補助金が終了する中で、「大型連休長期旅行」とはいかないものである。▼ちなみに、物価高が継続している中で費用抑制の工夫をした外出レジャーを楽しむ効率的な堅実志向の過ごし方がポイントとなり、長期旅行・帰省だけにお金をかけるのではなく、短期旅行や日帰りレジャー、自分の時間確保など様々な過ごし方を組み合わせた「ハイブリッド型」の過ごし方に注目されているそうだ。▼今年の春闘では、最終集計まで5%越えを維持したのは33年ぶりであり、連合は一定昇相当分を含め5%以上。▼中小組合は格差是正分1%以上を加えて1万8千円以上・6%以上」を目安とする春闘方針を確立し、「賃金も物価も上がらない」という社会的規範(ノルム)を変え、全ての働く人の持続的な生活向上を図り、新たなステージを定着させることを目指すとしている。▼人事院勧告を踏まえた改正給与法等の施行日は未だ不透明な状況だが、春闘の結果が人事院勧告に繋がることは事実であり、来年こそ全世代大幅賃上げを勝ち取るために春闘頑張ろー！

『源泉』

12月になり早いもので今年も残すところ1ヶ月を切り、職場では忘年会、家庭ではクリスマス、地本では旗納めと、イベントが目白押しなのかな、あつという間に年末・年始を迎えそうなのだが、今年の年末・年始は9連休となるようだ。▼年末・年始の大型連休を調べてみると、直近では2019年以来5年ぶりとなるが、ホテルなどの宿泊費は相変わらず高騰が続き、年内にはガソリン補助金が終了する中で、「大型連休長期旅行」とはいかないものである。▼ちなみに、物価高が継続している中で費用抑制の工夫をした外出レジャーを楽しむ効率的な堅実志向の過ごし方がポイントとなり、長期旅行・帰省だけにお金をかけるのではなく、短期旅行や日帰りレジャー、自分の時間確保など様々な過ごし方を組み合わせた「ハイブリッド型」の過ごし方に注目されているそうだ。▼今年の春闘では、最終集計まで5%越えを維持したのは33年ぶりであり、連合は一定昇相当分を含め5%以上。▼中小組合は格差是正分1%以上を加えて1万8千円以上・6%以上」を目安とする春闘方針を確立し、「賃金も物価も上がらない」という社会的規範(ノルム)を変え、全ての働く人の持続的な生活向上を図り、新たなステージを定着させることを目指すとしている。▼人事院勧告を踏まえた改正給与法等の施行日は未だ不透明な状況だが、春闘の結果が人事院勧告に繋がることは事実であり、来年こそ全世代大幅賃上げを勝ち取るために春闘頑張ろー！

役員選考委員会を開催

次期地本大会での組織体制確立に向けて



高橋役員選考委員長

「協議事項をお願いしたい。」と挨拶を受け協議事項に入った。協議事項については、伊藤書記長から、2024年度地本執行委員会の補充、2025年度中央本部執行委員及び各県協(各分會)における役員体制の現状等について説明がされた。

「地本・分會体制が整って、おらず、本部役員を選出できるのか」といった質問・意見等がだされた。事務局からは、「地本執行委員が局や近隣署に在籍していることは絶対ではないが可能な限りそうしたい」と考えが示された。



各県協役員選考委員

また、各委員からは県内各分會の役員体制の現状及び取り組み状況等について、「地本大会以降に大会を開催した分會はかなり少ない状況にある。」どの分會も役員体制の確立は厳しい状況にある。「現執行部も、新たに役員をお願いするのはためらっているのではないのか」といった話が出された。

令和6年度秋田県林活議員連盟連絡協議会定時総会



総会の様子



来賓の皆様

秋田県林活議員連盟連絡協議会は、11月25日(月)に令和6年度の定時総会を開催、総会には、県及び各市町村林活からの参加者、来賓を含め90名余りが参加し、盛大に行われました。

「秋田COI-NEXT」ソウゾウの森プロジェクトについて」と題して講演が行われ、木高研の設立目的や取り巻く情勢、秋田COI-NEXTの基本コンセプト、実施する研究課題等について紹介があり、「森」の価値創造を通じた秋田県の未来について理解を深めています。

11月3日、地本事務局を本会場として、web併用による地本役員選考委員会を開催した。各県協から選考されている委員として、青森県協：笹木勲さん(青森)、岩手県協：高橋博孝さん(三陸中部)、宮城県協：長岐祐平さん(仙台)、秋田県協：竹村真一さん(秋田)、山形県協：佐藤智博さん(秋田)の出席を確認し、事務局として地本三役が出席した。

9月20日(金)～21日(土)の2日間の日程で、分會・支部合同による東北(青森)地方共済推進会議が、青森市浅虫温泉旅館柳の湯において59名が参加をして開催しました。

開催冒頭黙禱を捧げた後、成田代表委員(議長)、共済本部の水田事務局長が基調報告を兼ねて挨拶を行い、引き続き矢吹(やぶき)事業推進部長、降矢(ふき)より授与し1日目を終了。

2日目は、青森・岩手・宮城三県における「火災共済・自然災害状況報告」を兼ねて角岸(かどきし)こくみん共済COP(全労済)青森推進本部事業推進部次長、「三県における交通事故状況報告」を兼ねて藍原(あいはら)青森損調SC所長の説明と挨拶を頂きました。

2023年度共済活動と2024年度の共済活動方針と各種共済加入目標及び自賠責共済加入目標等について提案し、質疑の後全体で確認して2日間の会議を終えました。

※写真その1 契約更改手続きの話を中心に関宮城県から保坂(宮城北)・長岐・藤本(仙台)担当者は2年連続で出席している。

秋田県林活議員連盟連絡協議会を組織する各団体から10人の方が参加し、代表として東北森林管理局長の大政康史氏、秋田県森林技監である村上幸一郎氏の両名より挨拶、その後、石田事務局長より議案の提起、全体討論の後、満場一致で議案が可決されました。

総会終了後は、秋田県立大学・木材高度加工研究所(以下「木高研」)の教授・高田克彦氏より「秋田COI-NEXT」ソウゾウの森プロジェクトについて」と題して講演が行われ、木高研の設立目的や取り巻く情勢、秋田COI-NEXTの基本コンセプト、実施する研究課題等について紹介があり、「森」の価値創造を通じた秋田県の未来について理解を深めています。



講師する高田克彦氏

2025年1月セット共済契約更改で意思疎通を図る

—東北(青森)地方共済推進会議開催—



2年連続出席の保坂さん・長岐さん・藤本さん

宮城三県における「火災共済・自然災害状況報告」を兼ねて角岸(かどきし)こくみん共済COP(全労済)青森推進本部事業推進部次長、「三県における交通事故状況報告」を兼ねて藍原(あいはら)青森損調SC所長の説明と挨拶を頂きました。

※写真その2 林退会の担当者に交じり、こちらも真剣な表情でこれからの共済について学ぶ担当林野労組の皆さん

※写真その1 契約更改手続きの話を中心に関宮城県から保坂(宮城北)・長岐・藤本(仙台)担当者は2年連続で出席している。

今年一年間、各分會からの記事投稿に感謝します。月一回の定期発行に向けては、組合員の皆さんからの記事が大切です。各分會の地域での活動状況等を伝えていくためにも引き続き、ご協力をお願いします。

機関紙編集委員会より

各分會組合員の皆さんへ